

お客様工場に安心・安全を提供し、生産性が高く環境負荷の小さいモノづくりをサポートすることで、サステナブルな社会の構築に貢献し、企業価値の向上につなげます。

## 事業モデルと競争力の源泉、経営理念との関係

ユーシン精機は、1973年に設立し、当初は様々な自動機械を手掛けていましたが、1978年にプラスチック成形品の取出口ボット業界に参入しました。国内最後発メーカーから業界トップシェア企業へ成長し、さらに後工程の自動化装置と組み合わせたシステム化展開を加速しました。同時にグローバル展開を進め、現在は18ヶ国に57の拠点を有しています。また、お客様に納入した機械に対する継続的な部品・保守サービス事業もグローバルに行っています。

当社は経営理念の一つである「常に革新ある技術を創造し、広く社会に貢献します」にあるとおり、お客様の工場のお悩みを技術で解決することを目指しています。例えば、成形品を射出成形機から素早く取り出せれば、お客様の生産性が上がりますが、ロボット本体には高速動作に伴って振動が生じるため、振動の抑制に待ち時間を要して、サイクルタイムの短縮が難しくなります。このため、当



代表取締役社長 博士(工学)

## 小谷 高代

社は機械本体の剛性と振動制御にこだわった独自技術で振動を抑え安定した高速動作を実現し、お客様の生産性向上への貢献をしております。最新機種では、お客様のニーズを丁寧にヒアリングし、取出不良の原因究明をアシストする取出診断機能やサイクルアップを容易に実現

するためのアシスト機能であるサイクルアップ機能などを盛り込んでいます。

「保守・サービス力」は当社の強みの一つです。お客様が当社の機械を使い始められて不具合がないのはもちろん、何か問題が生じたときには、いち早くお客様の現場に駆けつける体制をとっています。当社の健全な財務体質は、より優れた商品を生み出す技術開発を支える基盤であると同時に、不況下でもお客様が保有する機械の保守・サービスを確実に継続することを可能としています。保守・サービスを含めてサステナブルな会社でありたいと考えています。

お客様の現場に最適な仕様の設備をご提案する「提案力」も我が社の強みです。取出口ボットには多くの種類があるため、お客様の現場が目指される工場の姿や重視されるポイント、制約となる条件を丁寧にヒアリングし、お客様に合った生産設備をご提案します。

技術力、サービス力、提案力などの総合力が評価され、お客様から

多くのベストサプライヤー賞を頂いています。今後も当社の社名ユーシンの由来である“信用有る”会社でありたいという想いを大切に、真面目かつ誠実に仕事に取り組むことによって信用力を高めてまいります。

## 中長期的な市場環境の認識と今後の戦略

SDGsの目標にもありますとおり、環境の大切さと同様に、全ての人々が平等に健康的で心豊かな暮らしができる世界づくりが今後も重要となります。人々の基本的な生活水準の向上のために、大量生産が可能で、品質が安定し、軽量でリサイクルが容易なプラスチック成形品市場は中長期的な拡大が見込まれます。特に当社が得意とする自動車・電子機器・医療などの分野における高付加価値プラスチック成形品は、回収やリサイクルを強化する中で、今後さらに大きな市場拡大が期待できます。プラスチックはほぼ全ての産業で使われますが、例えば自動車のEV化に伴って車体の軽量化のためにプラスチックの積極的な採用がされています。バーチャリアリティなどを含む新しい分野で使われる機器にも必ずプラスチック部品が使用されます。またコロナ禍では、PCR検査キットや注射器、検体分析に使われるピペットや容器、手指の消毒用アルコールのプラスチックポンプ、そして在宅勤務で需要が喚起された電子機器やプリンタ類に使われるプラスチック成形品の増産がありました。医療分野においては、世界中で医療サービスの拡大が注目されていることからプラスチック成形品の需要は増えていくと予想しています。

このようなプラスチックの需要を満たすための成形工場では、射出成形機から成形品を取り出す作業が存在し、人手で行うと機械に挟まれるなどの危険を伴います。発展途上国でのプラスチック成形工場においては、現在でも人手で取り出し作業を行っている工場が多く存在しますが、労働者を危険な労働環境から解放する目的で、また、人件費の高騰への対応のため、取出口ボットの導入が進行し



ています。一方、先進国では取出口ボットの搭載率は既に高まっていますが、プラスチック成形工場は慢性的な人手不足問題を抱えています。高品質な成形品加工に向けた付加価値の高い機械ニーズに加えて、労働者不足を背景とした根強い自動化・省人化需要を背景に、当社が手掛ける取出口ボットの成長余地は大きいと考えています。これらの市場環境認識を踏まえ、当社が有する「技術力」、「サービス力」、「提案力」の3つの強みを基盤に、取出口ボット事業の拡大を目指します。

また、取出口ボットの基本構造である直交型ロボットは、高速性とティーチングを含む操作性に優れており、構造上、省スペースで設置可能であるといった特徴があります。このような特性を活かして、直交型パレタイジングロボットの開発と拡販に注力することで、事業領域の拡大を進めていきます。さらに、当社の技術の特徴と優位性を活かして、新たなビジネス機会を模索し、成長市場の開拓を進めていく方針です。

## サステナビリティ経営の推進と ESGへの取り組み強化

2022年8月にサステナビリティ委員会の設置を決議しました。事業活動を通じてサステナブルな社会・環境の構築に寄与するとともに、当社が持続可能な事業発展を通じて企業価値を向上させることを目的としています。今後は本委員会を活用しサステナビリティに関する基本方針や施策、さらにはマテリアリティなどの策定を進め、サステナビリティ経営を推進する方針です。

ESGの枠組みを用いて当社の具体的な取り組みをご説明しますと、まず環境については、お客様の工場における

省エネに貢献する商品開発と販売に努めつつ、当社においても環境負荷の小さい経営を目指しています。当社の生産において省エネルギー化を進めるため、電力会社と直接契約している国内全拠点で使用する電力の100%を再生可能エネルギーに変更しました。また、気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD) 提言への賛同も発表しました。

社会に対しては、当社はロボットの開発を通じて、「お客様の現場における危険な作業の削減」、「生産性の向上」、「エネルギー消費量の削減による環境負荷低減」を重要課題として活動しています。当社の事業と歴史を振り返れば、創業以来、お客様と一緒にイノベーションを共創して新しい技術の開発を行うことによりプラスチック成形業界のサステナブルな発展に貢献してきました。リユースが容易で、安定的に大量生産が可能なプラスチック成形産業への貢献は、「人々の基本的な生活水準の向上と、心豊かな生活の実現」に間接的に役立つと自負しています。当社の事業活動自体がSDGsの一環であり、そのような視点で当社の活動をさらに推進することにより、会社として、より大きな付加価値の創造につなげていくことができると期待しています。

ガバナンスに関しては、経営の妥当性と透明性を高めるため、社外取締役を委員長とする指名・報酬委員会を設置しています。2022年4月より新役員報酬制度を導入し、新たに中期業績・株価連動型賞与を織り込み、取締役会の実効性を高めて、持続的な企業価値の向上に努めます。

## ステークホルダー・エンゲージメントへの取り組み

ユーシン精機は2023年に設立50周年を迎えます。当社これまで、お客様やサプライヤー様をはじめとする全てのステークホルダーの皆さまとの協力関係の中で、社会課題を抽出し、その解決手段を研究開発し、付加価値の提供に努めてまいりました。今後もステークホルダーの皆さまとの共創、共栄が実現できるよう、各ステークホルダーとの情報共有と丁寧な関係の維持に努め、当社内においては、組織再編、人財の最適配置、各部署の連携など、成長のための重要な取り組みや仕組みづくりを着実に実行してまいります。

また、働く仲間である大切なステークホルダーの社員に対しては、一人ひとりが潜在能力を最大限に発揮し、生き活

きと働き続けられる職場環境を作ることが経営の責任と考えています。社員一人ひとりが、会社という器を使って、社会に働きかけ、より充実した人生を送ることができれば、ひいては会社自身も強くなります。近年は、各部署単位で若手社員を巻き込み議論する中で、コーポレート・アイデンティティの制定及び浸透を進めてきました。当社の経営の中に、現在の社員の考え方を取り入れ、組織として創造力を高めるための良い職場環境の構築を目指します。

株主・投資家の皆さまに向けては、エンゲージメントを強化することはもちろん、2023年に設立50周年を迎えるにあたり、2022年度は1株当たり配当金を2021年度比11円増配の30円とさせていただく予定です。

全てのステークホルダーとのエンゲージメントを経営に反映させることで、中長期的な企業価値の向上を図ります。創業者の「できない、無理だ、は出発点」の考えを基本に、チャレンジを続けてまいりますので、これからのユーシン精機に変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



「コーポレート・アイデンティティの浸透、組織・人財づくりの強化などを実行し、新たな成長につなげていきます」